

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月17日(木)

《平和のために ～知恵を求めて祈りましょう～》

今日の福音(ルカ 19・41 - 44)では、イエス様がエルサレムに登る前に、都エルサレムを見ながら涙を流して、「もしあなたがたが、平和への道をわきまえることができたなら」とおっしゃっています。エルサレムは、昔々、アダムとエバの時代から、いつも神様の信仰に従ってきた民族でした。その民族の都なのに、一度も平和の道を歩まなかった。そういう心でイエス様が涙を流したのです。

この世の中に「平和は大嫌い」という人がいるでしょうか。いませんね。歴史の中で戦争を起こした人たちでも、「平和が大嫌い」とは思っていなかったと思います。むしろ、「平和のために」と言いながら、戦争を起こしたのです。「正義のため」、「神様のみ旨にかなう聖なる戦争」などと言いながら、結局平和とは正反対の方向へ人々を歩ませ、平和を奪って来たのです。

そのような歴史上の悪い人物の話だけでなく、私たちの家庭の中でも平和を望まない家族がいるでしょうか。いないと思います。しかし、家庭が崩れてしまって、子どもがばらばらになっている姿は、どこでも簡単に見られます。人々が家庭を作る時、「結婚して十何年経ったら、必ずこの家庭を崩す」という決心をして結婚する人はいないでしょう。それでも、家庭が上手く行かずに滅茶苦茶になり、バラバラになるのです。その原因はどこから来るのでしょうか。みんな平和を望んでいるのにもかかわらず、平安な時代、平安な家庭、平安な国、平安な隣人は、なかなか探しにくいです。どこからそういう痛みが生じるのでしょうか。

子どもの時に、家庭の中でたくさんの傷を受けた人がいたとしましょう。そしてその人が、「このような家庭がなくなるように、世の中のいろいろな環境を変えたい。」という決心をして政治家になったとしましょう。その心は素晴らしいものです。しかし、その傷が問題です。子どもの時についた傷は、必ず現れます。愛されたことがないから、愛そうとしても愛する方法が分からないのです。「傷を与えない」と言いながら、自分が受けたのは傷ばかりだから、自分から出るのも傷ばかりです。ヒトラー、ナポレオン、北朝鮮の金日成、豊臣秀吉、みんな同じです。

そういうことを考えてみると、私たちには本当に祈りが必要です。一人一人が、<sup>まこと</sup>真の平和の意味をはっきり悟りながら、正しく平和の道を歩もうとしなければいけないと思います。もちろん、私たちわずかな人数だけが平和の道を歩もうとしても悪魔がそれを許すはずはありません。イエス様も負けたではありませんか。イエス様も平和の道を叫んだのですが、一番悪いやり方で命をとられたではありませんか。これが世の中なのかもしれません。しかし、私たちには希望があります。自分の傷を乗り越えた完璧な平和、みんなが神様と同じ考え、同じ心を持つ世界、そのような世界が約束されていることを私たちはみんな知っています。そのような平和な世界のための条件は、「世があなたを裏切っても、あなたは世を裏切ってはいけない。優しい心を保とうとする心を諦めてはいけない。」の一つだけでしょう。

でも、本当に難しいです。世の中がこれからどのように流されるのかわかりません。全く推測できません。しかし、今生きている私たちは、少なくとも、正しい道を歩もうとする心を絶対に捨ててはいけないと思います。もし私たちに争う相手がいるとすれば、それは悪の勢力でしょう。

そのような心が自分の心になるように、絶え間なく祈ることが必要だと思います。

目が覚めて、そこから戦いは始まります。その戦いに、10回中1回だけならば勝てるかもしれませんが、いいえ、1回だって負けるかもしれません。しかし、戦おうとするその心は、絶対に失わないように頑張りましょう。

平和への道については、いろいろな形でいろいろな人々がうるさく言います。しかし本当の平和は、神様がくださった良心で感じるものです。お金を握っても、健康を握っても、平和ではないとすぐに分かると思います。

ありがとうございました。

— ミサ後 —

今日の福音の結論です。

お年寄りの知恵に驚かされることがあります。今の時代、平和の道をわかまえる力は『知識』だと思われています。しかし、歴史を滅茶苦茶にした人のほとんどは、知識人と呼ばれる人たちです。平和をわかまえる力は、知識ではなくて『知恵』なのです。知恵は神様がくださる心です。ですから、祈り求めるものは『知恵』です。わかまえる知恵です。この世の中では、知識のある者が世界を握ります。しかし、信仰者である私たちは、それが決して未来を美しくする力ではないことを理解する必要があります。

いつも知恵を求めましょう。